

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム秋桜
(ユニット名)	1番地
所在地 (県・市町村名)	長崎市
記入者名 (管理者)	中山 理恵
記入日	平成 20 年 8 月 23 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	職員は、常に理念やサービス方針を意識してケアに当たる事ができるよう、定期的な確認も行っていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	どのような目的を持って、どのような方がどのような生活を送っているのか、知って頂く事は大切な事であると考えている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	イベントを重ねるにつれ、近所の方にホームの事を知って頂き、近所の方が気軽に立ち寄って頂けるような関係を作っていきたい。11月には、施設全体で地域の方も参加できる文化祭のようなものを、初めて開催する予定。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	今後も、地域の活動に入居者と共に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設内事業の応援(配食・地域支援事業など)という形では行っているが、グループホーム独自では職員数の確保ができず難しい状況。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を職員間で共有できるよう、会議の中で取り上げ、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、サービス内容を報告している。会議の議事録を他職員は回覧し、内容の共有を図る。会議で出た意見を受け、地元小学生との交流も実現した。	○	運営推進会議も回を重ねる毎に、委員の方からの提案も増えてきている。ホーム側も具体的な協力の内容を委員の方に示していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組んでいない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	できていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会を設け、職員全体が虐待について理解を深め、防止に努めている。	○	職員が意図せず、結果的に虐待となり得る場合もあると考えるので、精神的なケアについて意識的に関わる事の勉強会、情報の共有が今後も必要と考える。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、内容等を説明し、ご家族が理解・納得後契約するようにしている。わからない事や疑問点については、随時受け付けるようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れを行っている。入居者については、不満や苦情をうまく表現できない方もいる為、意見や不満等に関しては、日常会話の中からニーズを汲み取り、その都度対応している。	○	入居者の一つ一つの言葉を大切にしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者に体調不良や要望が聞かれた際には、その都度状況に合わせてご家族へ連絡を行っている。金銭管理は、基本的にはお預かりしないようにしている。職員の異動については、面会時や請求書送付時に報告するようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族に、要望や不安などを話して頂けるよう声掛けを行うように心掛けている。また、苦情受付箱を設置し、法人内にも苦情受付窓口を設けている。	○	意見箱を使用しなくても、ご家族が意見を言いやすいような環境づくりと共に信頼関係を築いていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などの際に、意見を交換できるようにしている。他、日常的にも気づきがあれば、その都度対応するようにしている。出勤職員が顔を合わせる時間帯にミーティングを行うようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況や行事・日課に合わせて勤務調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、併設施設もありやむを得ない場合もある。異動がある場合は、異動してくる職員に異動前にもホームに顔を出してもらい、入居者に顔を覚えて頂く等、入居者へなるべく影響を与えないよう配慮している。	○	なるべく、環境を変えないよう工夫していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験や勤務年数、職員に合わせ、研修を選び、参加している。</p>	○	<p>事業所内での研修も実施されており、職員が参加できるよう勤務調整を含め、参加する機会を増やしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に登録しており、参加するようにしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務に対するストレスなどは、職員個々人の状態に合わせて業務の振り分けを行っている。なるべく、ストレスを溜めないよう、職員間で話し合う機会を設けるようにしている。</p>	○	<p>職員の気持ちに余裕がなければ、いいケアはできないと考える。職員のストレスケアについては、重要な課題である。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎年人事考課を行い、個々について勤務状況の把握を行っている。業務に追われ、入居者とゆっくり関わる事ができなかったり、特定の方の援助に時間を費やす事もある。職員一人ひとりのケアへの思いを把握した上で、職員全員が向上心を持って働けるよう環境を整えていきたい。</p>	○	<p>運営者は、職員一人ひとりの声に耳を傾ける事が大事。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談の際には、可能であれば入居される本人も事前に見学に来て頂く。入居について、拒否傾向にある方に関しては、ご家族と密に話し合い、本人の混乱が最小限に抑えられるよう配慮している。ご家族と職員が統一した声掛けができるよう努めた。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談に至るまでについてもお話を伺い、不安な点や要望をよく聞くよう努めた。なるべくご家族の要望を取り入れ、不安な点については解決する努力を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容や対象者の状況次第では、他サービスを紹介する事もある。緊急を要する場合には、他グループホームの紹介を行い、入居に至ったケースもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前、同じ事業所でサービスを利用されていた場合には、本人に時折ホームに足を運んで頂き、馴染めるように配慮している。体験利用などは、実施していない為、いきなりサービス開始するというケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が昔得意だった事、現在できる事を見極め、行って頂く機会を作っている。料理の味付け・梅の漬け方・裁縫・行事に関する事など尋ねて、一方的な援助にならないよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ家族も参加して頂けるよう、普段の様子をお伝えする。外出や行事の参加などの声掛けをしている。特定のご家族の参加はあるが、全てのご家族の参加はできていない状況。	○	ご家族も参加できるよう、また要望などいい易い環境づくり、声掛けを行っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の際には、近況等をお伝えしたり、日常生活や外出の様子の写真を送るようにしている。また、昔の事をご家族と話をして情報を収集している。日常会話の中に取り入れることで、昔の事を懐かしむ姿もみられる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長時間の外出が困難な方で、車椅子対応の車輦が必要な方への葬儀出席の送迎を行う。面会についても、制限はなくいつでも受け入れている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の性格や相性を見ながら、座席の配置も工夫している。コミュニケーションについても、共通の話題を提供している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院され、契約が終了した後も、行先が決まっていな方に関しては、施設の情報を提供する等、支援した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に合わせ対応しているが、職員での対応が困難な場合には、ご家族に相談し協力してもらっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接には、なるべく本人宅を訪れ、どのような場所でどのような暮らしをされていたのか把握するようにしている。ご家族に話を聞き、利用の経過把握に努め、その情報についても全職員が周知できるように申し送りを行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方の心身状態や有する力を把握した上で、心身状態や有する力を見極め、ケアプランを作成し、実施するようにしている。	○	ご家族からの聞き取りだけではなく、生活暦など書いて頂くようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際には、ご家族に意向や要望を尋ねるようにしている。施設に一任するという方の多く、積極的な意見は引き出す事が困難な状況ではある。職員間でご本人がよりよい生活を送って頂く為には、どうすればよいのか考え、決定する事が多い。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の変化に応じて、対応している。	○	殆どの方が、急激な変化というものは見られないが、変化があった際には、こまめに介護計画を見直していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践については、個別記録に記載し、情報を共有するようにしている。個別記録を記載する際に、気になった事などは他職員と話し合うようにしている。また、会議録・バイタル表・連絡ノートに記載し、全職員が情報共有できるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	音楽療法の先生を招いたり、他事業所で行われる行事や催し物に参加している。本人やご家族の要望に個別に対応するよう心掛けている。墓参り・葬儀出席・外出・外食など。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練の際には、消防署の方も出席して頂く。ボランティアの受け入れは、随時行い、地域に開かれた施設を目指している。保育園のお遊戯会へ招待されたり、小学生が授業の一環としてホームを訪問してくれた。	○	気軽に、地域の方が訪ねて来てくれるような施設にしていく為に、地域の行事やホームの行事に参加して頂き、徐々に顔馴染みの関係を築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームでの生活が困難となり、他サービスが必要な場合は、ケースワーカーや他事業所へ相談を行ったり、情報提供を頂いているが、入居中には、他サービスの活用は行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より顔馴染みでかかりつけの病院があれば、継続して受診又は往診に来てもらえるよう対応している。入居者の状態によっては、主治医に連絡を行い、対応の指示を頂く事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々人ではかかりつけ医が異なっている為、認知症に関することや疾患に関することの相談をしやすいDrもいるが、総合病院については困難な状況にある。	○	気軽に相談できるDrがいれば、安心して入居者のケアができると考える。入居者の体調不良の際に、適切な指示が欲しい事が多い。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	体調に変化があった際には、事業所内の看護師に相談したり、処置をして頂くこともある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は、面会に行き、ご家族からも情報を収集する。症状が安定すると、早期退院に向けご家族ともお話をする。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化する前に、ご家族と相談し他サービスへの申し込み等を行っている。本人やご家族の要望を取り入れ、一緒に考える。入院中で、グループホームへの復帰が困難な場合は、主治医やケースワーカー、ご家族、グループホーム職員で話し合う機会を持ち、今後について検討したケースもある。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合でも、すぐに他サービスへの移行は困難な為、他サービスへの申し込みを行っている。主治医に往診を依頼する等、受診が困難な方に関しても、グループホームでの生活が継続できるように、主治医と連携している。現在のところ、医療的ケアの必要になった方は、秋桜では対応していない。	○	重度化し、グループホームでの共同生活が困難な方もおり、グループホームの機能が果たせていない事もある。ご家族がグループホームでの生活を希望されたり、他施設への入居待ち等で、重度化してもグループホームで生活を送るというケースが増えている。職員も少人数であるし、看護師も居ない為、課題は多い。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから、別の場所へ移り住む際には、ご家族にホームでの様子を申し送るよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	ミーティング等で、話し合う際には職員皆意識して声掛け等行っているが、時間が経っても意識を継続していきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	外出の希望があった際に、ゆっくり時間を使い出掛ける機会を増やしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	職員も食事を共にする事で、入居者の味の好みも分かりやすい。個々人に合わせた食事形態の検討もしやすい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表などを使用し、排泄パターンの把握とトイレ誘導のタイミングを掴むようにしている。気持ち良く排泄できるように、下剤の調節も行うようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望や汗をかいたりされた際には、入浴やシャワー浴を行っている。職員が必ず見守りを行う為、他入居者の対応もあり、安全面から考えると、職員の都合に合わせてもらっている部分が大いと思う。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣や入居者の体調を見ながら、休息を促したり、離床して頂いたりメリハリのある生活を送って頂けるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握した上での、特技や趣味を活かし、裁縫や陶芸、外出や外食などの楽しみ事の機会を作っている。音楽療法も取り入れ、昔の歌を唄え、歌が好きな方はとても満足されている様子。イキイキとした表情が見られる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お金については所持して頂かない様になっている。どうしても持っておかないと、不安な方に関しては、ご家族とも話をし、財布(少額)を持って頂く。買いたい物があれば一緒に買い物へ出掛け、ご自分の財布から、又はホームの立替金にて支払うようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望によっては、買い物に出掛けたり、ホーム周辺を散歩したりする等、なるべくその日の希望にそって出掛けられるよう支援している。しかし、職員数に限りもある為、困難な状況ではある。その他にも、グループホームの食材の買い出しや、季節ごとのお花見外出、外食、行事への参加など出掛ける機会を作るようにしている。	○	今後も、外出の機会を増やしていきたい。又、入居者の状態によって、行先のバリエーションも増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や遠出の外出などには、ご家族にも声を掛け、外出活動に参加して頂いている。伊王島や大村菖蒲園、あぐりの丘の芋植えなど、同行して頂いた。日中は、就労している家族もいる為、参加される家族は決まってきた。希望により、葬儀への出席への送迎を行った。	○	ご家族を巻き込み、色々な所へ出掛けて、入居者のホーム以外での違った一面をみてほしい。又、一緒に時間を楽しく頂く機会を作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書くことに抵抗がある方でも、お正月には、直筆でご家族へ年賀状を書いて頂いた。電話については、贈り物が届いた際には、職員がダイヤルした後、ご本人が電話で直接お礼が言えるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は、随時受け入れており、ゆっくり過ごして頂くようにしている。面会者の人数によって、居室や食堂など居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転落の危険性が高い場合には、ご家族に了解を得て、ベッド柵を使用させて頂いている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、職員数と入居者の混乱に応じて、玄関に鍵を掛ける事があるが、殆ど夜間帯のみ施錠を行っている。	○	入居者の安全の確保からも、状況次第では施錠する事もあるが、できるだけ行わないよう、職員の配置や対応を工夫していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、職員が入居者の所在が把握しやすい場所に居るようにしている。居室にて、過ごされている方に関しては、巡回を行い様子観察する。夜間に関しても、定期的な巡回・安否確認を確実に実施している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の行動パターンや状態をみながら、物品の配置などは工夫している。認知症のレベルも違う方が共同生活している為、双方に不便が生じないように見守り・声掛けも重要であると考えている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こった際には、事故報告書をあげ、事故の分析を行い再度事故が起こらないよう取り組む材料としている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事業所内で行われている、救急救命の講習にさんかする機会はあるが、定期的には行えていない。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に数回、消防避難訓練を行っている。時折、消防署の方も同席し、指導をして頂いている。近所の方にも避難訓練の際には声掛けを行っているが、参加や見学などはない。火災が起こった時など、協力して下さるよう依頼は行っている。	○	運営推進会議でも、消防避難訓練については報告を行っている。災害が起こった際には、近くに住む高齢者に対して、施設を開放する事も提案した。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	年に1度の家族会にて、消防避難訓練などについては説明を行っているが、欠席された方に関しては、十分な説明ができていない。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	まず、職員一人ひとりが、入居者の変化に早く気付けるよう心掛けていく。気付いた場合には、他職員へ申し送りを行う。また、バイタルチェック表に記載をする等、全職員がその情報を共有し、適切な対応ができるよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、個人のケースに処方薬の説明書を挟んでいる。定期薬に変更があった場合には、全職員が把握できるよう日誌・連絡ノートに記載する。服薬については、マニュアルを作成している。毎日の服薬準備について、職員一人ひとりが携われるように、担当を決めセットしている。	○	二重・三重に確認を行い、誤薬防止に努めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や食事(バナナジュース)、食後のトイレ誘導など、日中も家事活動を行って頂き、身体を使う事もして頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご自分でできない方については、職員が携わり口腔状態の確認などもできているが、ご自分でされる方についても、時折磨き残しや出来ない事もある為、確認する必要があると感じる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計算は行っていないが、野菜をたくさん使い、旬の物を取り入れて美味しい食事を提供できるよう工夫している。水分なども自ら要求される事はあまりない為、職員が気掛けてお茶やジュースを提供している。心臓の疾患を持っている方や汗をよくかく方など、一人一人に合わせて水分量も心掛けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防や対応に関するマニュアルを作成している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一日の終わりには、台所周りの三角コーナーや排水溝の消毒を行っている。まな板などは、随時消毒を行い、衛生管理に努めている。食材についても、弱りやすいものは買い置きはしない事、賞味期限が過ぎていないものでも異変がみられるものについては、処分するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手作りの看板を置いたり、植木や花を飾っている。植木や観葉植物については、毎日面会に来てくださるご家族が持ってきて下さり、入居者と一緒に水をあげるのが日課となっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダでは、少しの野菜を育てたり、梅干しを漬けたものを置く等している。居室やリビングには入居者が描いた絵を飾っている。季節の花を飾り、季節感を味わって頂くと共に、夏でも冬でも換気をこまめに行い、外の気温を感じて頂く。ホーム周辺を散歩する事で、季節感を味わって頂く。	○	常に、季節感や生活感を味わって頂きたい。その為には、提供するだけでなく入居者にも参加できるような働きかけていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、一人になる空間の確保は難しいが、一人になりたい時には、居室に戻る等、自由に過ごして頂くようにしている。陽のあたる場所で、昼寝をしている方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇を持参し、配置している。好みのものや趣味については、制限する事なく、見守りを行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝には必ず換気を行い、体調管理に努めている。温度調節については、職員ではなく入居者に合わせるよう配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの広さや入居者の状態を考え、入居時の居室の位置も考えた。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや洗面所の場所がわかるよう、貼り紙で分かりやすく表示している。混乱や失敗があっても、そっと見守りさりげなくフォローしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りには、ベンチがあり散歩の際やおやつを食べるのに活用している。ベランダには、自由に出る事ができ、洗濯物を干したり植木をおいたり、野菜を育てたり、それぞれ利用している。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者がご自分のペースで生活できるよう、個々人の時間に合わせて援助を提供している。
- ・個人的な外出も、希望があれば送迎や同行を行っている。一人ひとりの要望に柔軟に対応。
- ・家庭的な雰囲気や生活感を大切に、行事や梅干しや干し柿、おはぎづくり等、昔ながらのものを一緒に作っています。
- ・早く地域の方に受け入れて頂けるよう、ホーム主催の行事などにも力を入れています。
- ・地域密着に力を入れており、保育園・小学生との交流もでき始めてきている。子ども110番の家にも登録。
- ・”ゆったり 楽しく ありのままに”を運営理念に日々、ケアに取り組んでいます。